

表 5.10.18(1) 重要な哺乳類の予測結果

予測対象	カヤネズミ
生態概要	<p>【分布】本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。淀川河川敷などの草地に生息する。府下全域に生息するとされるが、近年草地の減少に伴って、個体数が減少していると考えられている。</p> <p>【生態】低地から標高 1,200m あたりまで生息している。低地の畑や水田、休耕地、沼沢地、河川敷など水辺のイネ科植物の密生した草地に多く、水面を泳ぐ。ススキ、チガヤ、エノコログサなどの葉を編んで球形の鳥の巣に似た巣を 1m 前後の高さの茎につくる。冬は地表から地中にトンネルを掘って過ごす。イネ科植物の種子や草の実、昆虫などを食べる。ヘビ、イタチ、モズなどの天敵に捕食される。</p>
確認状況	<p>【舞洲】春季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外の 3 か所で球巣、1 か所で捕獲により 1 個体が確認された。夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地の 1 か所で球巣が確認された。秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地の 2 か所で球巣が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境> 草地</p> <p><事業計画地の利用状況> （仮称）舞洲駐車場予定地内で球巣と個体を確認</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、本種の主要な生息環境である草地は、（仮称）舞洲駐車場予定地周辺にも存在しており、開催期間中も本種が草地を利用することは可能と考えられる。</p> <p>照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。また、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるカヤネズミへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は舞洲の（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認され、夢洲では確認されなかった。土地の改変によって（仮称）舞洲駐車場予定地内のカヤネズミの球巣が確認された場所の草地は消失するものの、（仮称）舞洲駐車場予定地外においてもカヤネズミの球巣が確認されており、周辺の空地雑草群落や公園内の草地は残されることから、本種は舞洲内において（仮称）舞洲駐車場予定地外の場所も利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事開始前の草刈りを行う際に草地の中央付近から周辺へ進め、作業を複数回に分けて実施することにより、カヤネズミが周辺の生息可能な場所へ分散することが可能と考えられる。また、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるカヤネズミへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(2) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ツクシガモ
生態概要	<p>【分布】主に西日本に冬鳥として渡来し、干潟などに生息する。特に北九州地方に多い。府内では、1985年に1回、堺2区埋立地で繁殖が確認された。</p> <p>【生態】繁殖期は4～7月で、砂地の穴、樹洞、岩の割れ目、哺乳類の巣穴など、様々な穴を利用して営巣する。干潮時に干潟を歩いたり、水中に頭を入れて、甲殻類、海藻等を食べる。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季に会場予定地の開放水面及び水際部で221例、会場予定地外で6例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季 <確認位置の環境>開放水面、水際部 <事業計画地の利用状況>水面での休息、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の開放水面等で確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるツクシガモへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の開放水面等で確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面や水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるツクシガモへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(3) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	マガモ
生態概要	<p>【分布】冬鳥として全国に渡来し、北海道では留鳥。本州でも少数が繁殖する。</p> <p>【生態】湖沼、池、河川、河口、海岸に生息する。雑食性だが、水草の葉・茎・種子などの植物食が主である。繁殖期は4～8月、一夫一妻で繁殖するが、番の関係は抱卵期に解消する。巣は、水辺の草むらや藪の下の浅い窪みに草の葉などを敷いた皿形で、雌のみでつくる。1巣卵数は6～12個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季、春季及び繁殖後期に確認され、会場予定地の主に開放水面及び水際部で26例、会場予定地外で5例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季、繁殖後期 <確認位置の環境>開放水面、水際部 <事業計画地の利用状況>水面での休息、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び水際部で確認されたが、主に越冬のために一時的に利用していたものと考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるマガモへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び水際部で確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面や水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるマガモへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(4) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	シマアジ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として春、秋に渡来するが、南千島や北海道東部、愛知県では繁殖例がある。本州と琉球列島では越冬例もある。</p> <p>【生態】 湖沼、池、河川、水田に生息する。流れのない、狭くて浅い水面で採食する。雑食性だが、主として植物食で、イネ科やタデ科などの種子・植物片、ときにはアオミドロも食べる。繁殖期は4～6月、一夫一妻で繁殖する。巣は窪みに草を敷いた皿形につくる。1巣卵数は7～12個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 春季及び繁殖前期に会場予定地の水際部で5例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、夢洲の会場予定地で確認された場所の一部はウォーターワールドとして整備される予定であることから、開催期間中もこれらの水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外への影響を可能な限り低減する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるシマアジへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるシマアジへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18(5) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ウミアイサ
生態概要	<p>【分布】 冬鳥として九州以北に渡来する。</p> <p>【生態】 沿岸、河口、内湾に生息する。湖沼や池にも入る。沿岸の岩礁地などで潜水して採食する。主として魚食で、体長 8～10cm ぐらいの獲物をくわえとり、水面に浮かんで呑み込む。国内では繁殖しない。繁殖期は 5～7 月、短期的な一夫一妻で繁殖するものが多いが、一夫多妻や一妻多夫の記録がある。巣は地上につくり、樹木や草むらの間、崖の割れ目の中や洞窟の中などにある。1 巣卵数は 8～10 個、雌のみが抱卵し、雛は 31～32 日ぐらいで孵化する。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季に会場予定地の開放水面で 2 例、会場予定地外で 1 例、夢洲北側の海上で 5 例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季</p> <p><確認位置の環境> 開放水面</p> <p><事業計画地の利用状況> 水面での休息、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び会場予定地外で確認されたが冬鳥であるため越冬期の一時的な利用と考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるウミアイサへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び周辺海域で確認されたが、冬鳥として夢洲及びその周辺を一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるウミアイサへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(6) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ヘラサギ
生態概要	<p>【分布】数少ない冬鳥または旅鳥として渡来する。かつては鹿児島県出水市で定期的に群れが越冬していたが、近年では各地に少数が渡来するだけである。</p> <p>【生態】干潟、水田、湿地、河川、湖沼に生息する。水生昆虫の幼虫・成虫、腹足類、甲殻類、魚、カエルなどを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は地方によりまちまちである。一夫一妻で繁殖する。巣は地上の草むらの中や、マングローブなどの樹上5mくらいまでに、枯れ枝で浅い皿形につくり、枯れ葉などで内張りをする。1巣卵数は3~4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季に会場予定地の開放水面及び水際部で10例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季 <確認位置の環境>開放水面、水際部 <事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び水際部で確認されたが冬季のみの確認であるため、越冬期の一時的な利用と考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるヘラサギへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の開放水面及び水際部で確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるヘラサギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(7) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオバン
生態概要	<p>【分布】本州以南では留鳥または冬鳥、北海道には夏鳥として渡来する。</p> <p>【生態】湖沼、池、河川、水田など淡水域を好み、生息する。水面を泳いだり潜水して水草の葉・茎・種子を食べるほか、水辺の昆虫、貝、甲殻類も採食する。繁殖期は4～8月、年に1～2回、一夫一妻で繁殖する。ヨシ原や草むらの中の水面に、雌雄共同で枯れ草を積み重ねて皿形の巣をつくる。1巣卵数は6～10個だが、まれに14個が1巣卵に産卵されることがある。</p>
確認状況	<p>【夢洲】全季に確認され、会場予定地の開放水面や水際部で43例、会場予定地外の開放水面や水際部で16例、夢洲の西側及び北側の海上で3例が確認された。</p> <p>【舞洲】冬季及び春季に確認され、（仮称）舞洲駐車場予定地外の水際部で14例、舞洲北側の海岸沿いで49例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季、繁殖後期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境></p> <p>【夢洲】開放水面、水際部</p> <p>【舞洲】開放水面</p> <p><事業計画地の利用状況>水面での休息、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は調査期間をとおして、会場予定地内外や夢洲周辺の海上、（仮称）舞洲駐車場予定地外の水際部や舞洲北側の海岸沿いで広く確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、夢洲の会場予定地で確認された場所はウォーターワールドとして整備される予定であり、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの水辺や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外への影響を可能な限り低減する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオオバンへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は調査期間をとおして、会場予定地内外や夢洲周辺の海上、（仮称）舞洲駐車場予定地外の水際部や舞洲北側の海岸沿いで広く確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面や水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオバンへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(8) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ケリ
生態概要	<p>【分布】 留鳥として近畿地方以北の本州に分布し、局地的に繁殖する。北海道や沖縄県では稀。</p> <p>【生態】 水田、畑、河原、草地に生息する。昆虫の成虫・幼虫、イネ科やタデ科などの草の種子などをついばむ。繁殖期は3～6月、一夫一妻で繁殖する。巢は地上の砂地に窪みを掘り、枯れ草、蘚類、地衣類、木片などを敷く。1巢卵数は3～4個で、ほとんどは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 繁殖後期に会場予定地の草地で3例が確認された。</p> <p>【舞洲】 繁殖後期に（仮称）舞洲駐車場予定地の裸地で3例が確認された。</p> <p><確認時期>繁殖後期 <確認位置の環境>裸地、草地 <事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の裸地や草地で確認されたが繁殖後期のみの確認であり、営巣は確認されなかったことから、会場予定地の利用は一時的なものと考えられる。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。さらに、空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。加えて、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるケリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の裸地や草地で確認されたが繁殖後期のみの確認であり、営巣は確認されなかったことから、会場予定地の利用は一時的なものと考えられる。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるケリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(9) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ムナグロ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として渡来し、少数が越冬する。</p> <p>【生態】 干潟、水田、畑、草地に生息する。地上を歩いたり走ったりして、急に止まってついでに急襲型である。昆虫、甲殻類、貝類、ミミズやゴカイ類などの動物食だが、草の種子も食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月ごろ、一夫一妻で繁殖する。巢は地上に窪みをつくり、草や葉を敷く。1 巣卵数は4 個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 秋季に会場予定地の水際部で4 例、会場予定地外で4 例が確認された。</p> <p><確認時期> 秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても夢洲1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>さらに、空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるムナグロへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>夢洲1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても夢洲1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の裸地や水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるムナグロへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(10) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ダイゼン
生態概要	<p>【分布】 旅鳥または冬鳥として渡来する。関東以南の干潟で越冬し、一年中見られる地域もある。</p> <p>【生態】 干潟、河口などに生息する。地上を走り、急に止まってあらぬ方向に急襲するように採食する。鞘翅類、双翅類、半翅類などの昆虫、甲殻類、貝類、ミミズ、ゴカイなどの動物質、草の種子などの植物質を食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上の窪みに木片、蘚類、地衣類、小石などを敷く。1 巣卵数は3～5個で、ほとんどは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 秋季に会場予定地の水際部で2例、会場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、夢洲で本種が確認された場所はウォーターワールドとして整備される予定である。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの水辺や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるダイゼンへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるダイゼンへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(11) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コチドリ
生態概要	<p>【分布】九州以北に夏鳥として渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。</p> <p>【生態】河川、干潟、水田、埋立地に生息する。砂泥地の表面から、昆虫の成虫・幼虫をくわえとる。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は砂地に浅い窪みを掘り、内装に小石や貝殻の破片、あるいは植物片などを敷く。1巣卵数は3～5個で、ほとんど4個の場合が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて会場予定地内外の主に水際部や裸地で75例が確認された。公益社団法人大阪自然環境保全協会提供資料（令和3年）によると、繁殖が確認されている。</p> <p>【舞洲】繁殖後期に（仮称）舞洲駐車場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部、裸地</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、飛翔、他個体との縄張り争いと思われる行動</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の砂礫地で春季から秋季にかけて確認された。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコチドリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の砂礫地で春季から秋季にかけて確認された。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事期間中においても夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の砂礫地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコチドリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(12) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	シロチドリ
生態概要	<p>【分布】 留鳥または漂鳥として広く分布するが、北日本では夏鳥。関東地方以西では越冬個体が多い。</p> <p>【生態】 河口、砂浜、干潟、河川、埋立地に生息する。急速に走って急停止し、急に方向を変えてついでに急襲タイプである。鞘翅類や半翅類などの昆虫、クモ類、ハマトビムシなどの甲殻類、ミミズやゴカイ類、小型の貝類、ヨコエビ類などを食べる。繁殖期は3～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、砂地の漂流物の間や疎らな草の間などの浅い窪みに、木片、小石、貝殻片などを敷いてつくる。1 巣卵数は3 個が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 春季から冬季にかけて会場予定地の主に水際部で80 例、会場予定地外で18 例が確認された。公益社団法人大阪自然環境保全協会提供資料（令和3 年）によると、繁殖が確認されている。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季、冬季</p> <p><確認位置の環境> 主に水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の主に水際部で年間をとおして確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、夢洲1 区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるシロチドリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の主に水際部で年間をとおして確認された。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1 区の内水面や周辺海域の水際部と合わせて野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、夢洲1 区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の砂礫地や開放水面への不要な立ち入りを禁止する。さらに、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるシロチドリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(13) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	メダイチドリ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として全国に渡来する。関東以西では小数が越冬し、沖縄県では冬鳥。</p> <p>【生態】 干潟、砂浜、河口、河川に生息する。国内では繁殖しない。6～7月ごろ繁殖する。砂地に浅い窪みを掘り、植物片を敷いて巣をつくる。1 巣卵数は 3 個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 春季から夏季にかけて会場予定地の水際部で 31 例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期、夏季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるメダイチドリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止する。また、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。加えて、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるメダイチドリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(14) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	セイタカシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来するが、東京湾周辺では留鳥。愛知県、三重県、沖縄島などでも繁殖例がある。</p> <p>【生態】干潟、河口、水田、湖沼、湿地に生息する。静かな水の中に入って採食する。双翅類などの昆虫の幼虫や小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシなどを食べる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みにつくる。1巣卵数は3～4個で、4個が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季、夏季及び秋季に確認され、会場予定地の水際部で7例、会場予定地外で5例が確認された。公益社団法人大阪自然環境保全協会提供資料（令和3年）によると、繁殖が確認されている。</p> <p><確認時期>春季、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるセイタカシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を經由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを經由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面や水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるセイタカシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(15) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	タシギ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として渡来するが、本州中部以南では冬鳥。小群でいることが多い。</p> <p>【生態】 水田、湿地、池、河川などに生息する。昆虫の幼虫、ミミズ、小型の甲殻類、小型の軟体動物などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上の乾いたところの草陰や藪の下などの窪みにつくり、草片で内張りをする。1巣卵数は3～4個で、4個の場合が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季、繁殖前期及び秋季に、会場予定地の水際部で3例、会場予定地外で5例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季、繁殖前期、秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥としての一時的な利用と考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるタシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。加えて、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるタシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(16) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオソリハシシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として全国に渡来する。</p> <p>【生態】干潟、河口、砂浜、河川に生息する。甲殻類、軟体動物、昆虫、小魚などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は乾いた高まりにあり、地上の窪みに枯れ草や地衣類で内張りをする。1巣卵数は3～5個で、ほとんどは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】繁殖前期に会場予定地の水際部で1例が確認された。</p> <p><確認時期>繁殖前期</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や周辺海域の水際部と合わせて野鳥園を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオオソリハシシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオソリハシシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(17) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	チュウシャクシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来する。群れていることが多く、数百羽以上が見られることもある。南西諸島では少数が越冬。</p> <p>【生態】干潟、海岸の岩場、農耕地、河川に生息する。泥の中に探りを入れ、こじるようにしてカニやカエルなどをほじり出す。水生昆虫の幼虫やベリリーなども食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖する。巣はツンドラ内の乾いた地上に窪みをつくり、植物片で内張りをする。1 巣卵数は2～4 個で、ほとんどは4 個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季、繁殖前期及び秋季に会場予定地の水際部で16 例が確認された。</p> <p>【舞洲】春季及び繁殖前期に舞洲北側の海岸沿いで13 例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期、秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるチュウシャクシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の会場予定地外の夢洲1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても夢洲1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるチュウシャクシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(18) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ツルシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来し、本州以南では稀に越冬する。ハス田などの減少にともない、渡来数が激減している。</p> <p>【生態】水田、湿地、ハス田、干潟などに生息する。水生昆虫の成虫・幼虫、甲殻類、軟体動物などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～6月、一夫一妻、または継続的一妻多夫で繁殖する。巣は草や蘚類の上につくり、枯死木のそばにあることが多い。1巣卵数は3～4個で、多くは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の水際部で2例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるツルシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるツルシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(19) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コアオアシギ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として渡来する。本州以南では越冬するものもいる。</p> <p>【生態】 水田、湿地、池、干潟に生息する。水生昆虫、小さい甲殻類、軟体動物などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は水辺の地上につくり、枯れ草で内張りをする。1巣卵数は3～5個で、ほとんどが4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 秋季に会場予定地の水際部で3例が確認された。</p> <p><確認時期> 秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコアオアシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコアオアシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(20) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	アオアシシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として干潟、河口、水田、河川、池に渡来する。</p> <p>【生態】本州中部以南では一部越冬する。水生昆虫、甲殻類、ミミズ、カエル類や小魚も食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖するが、一夫二妻もしばしば記録されている。また一つの巣に2羽の雌が産卵する例もある。巣は樹木や石のそばにつくる。1巣卵数は3～4個で、ほとんどは4個。日中は雌が、夜間は雄が抱卵する。雛は22～25日ぐらいで孵化し、早成性の離巢性で、両親の世話で育ち、25～31日ぐらいで独立する。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて会場予定地の水際部で19例、会場予定地外で6例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるアオアシシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるアオアシシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(21) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	タカブシギ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥または冬鳥として渡来する。関東以西でごく少数が越冬する。</p> <p>【生態】 水田、湿地、河川、湖沼に生息する。昆虫の成虫・幼虫、甲殻類などの小動物を食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、ツグミ類、カササギ、ハト類などの古巣を利用することもあるが、多くは蘚地の窪みにつくる。1巣卵数は3～4個で、ほとんどは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 秋季に会場予定地の水際部で5例、会場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるタカブシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるタカブシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(22) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	キアシシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来する。琉球諸島では一部が越冬する。</p> <p>【生態】干潟、河口、岩場、河川、水田に生息する。甲虫や双翅類などの昆虫をついばむ。繁殖期や繁殖についてはあまりわかっていない。1 巣卵数は 4 個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて、会場予定地の水際部で 54 例、会場予定地外で 3 例が確認された。</p> <p>【舞洲】繁殖前期に舞洲北側の海岸沿いで 1 例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるキアシシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるキアシシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18 (23) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ソリハシシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来する。</p> <p>【生態】干潟、河口、海岸、河川、水田に生息し、内陸部の湿地にはあまり入らない。双翅類の成虫・幼虫などの昆虫、小型の甲殻類などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上の窪みにつくり、植物片で内張りをする。1巣卵数は4個が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて会場予定地の水際部で16例、会場予定外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるソリハシシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるソリハシシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(24) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	イソシギ
生態概要	<p>【分布】 中部地方以北に夏鳥として渡来し、その他では留鳥として分布する。</p> <p>【生態】 河川、湖沼、水田、海岸、河口、干潟に生息する。ユスリカ類、トビケラ類などの水生昆虫の幼虫、ブユの幼虫などを食べる。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖するものが多いが、同時的な一夫二妻、継時的な一妻多夫の例がある。巣は砂地に浅い窪みを掘り、枯れ草を敷いて皿形につくる。1巣卵数は3～4個で、ほとんど4個だが、稀に5～7個のことがある。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 調査期間をとおして、会場予定地内外の主に水際部で28例が確認された。</p> <p>【舞洲】 冬季から秋季にかけて確認され、舞洲北側の海岸沿い等で22例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季、春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季、冬季</p> <p><確認位置の環境> 主に水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は調査期間をとおして、会場予定地内外の主に水際部や舞洲北側の海岸部で確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるイソシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は調査期間をとおして会場予定地内外の主に水際部や舞洲北側の海岸部で確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるイソシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(25) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	キョウジョシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来する。本州中部以南では少数が越冬する。</p> <p>【生態】海岸、干潟、河口、河川、水田に生息する。双翅類などの昆虫やクモ類、またイネ科の種子などの植物質も食べる。非繁殖期には、波をかぶる岩礁でヨコエビ類、カニ類、フジツボ類などの甲殻類、タマキビガイやイガイなどの貝類を食べ、砂浜ではハマトビムシ、二枚貝なども食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、地上の浅い窪みにヤナギ類などの小さい枯れ葉を内張りにしてつくる。1巣卵数は3～5個で、ふつうは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季及び繁殖前期に会場予定地の水際部で12例が確認された。</p> <p>【舞洲】春季に舞洲北側の海岸で1例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるキョウジョシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるキョウジョシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(26) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ミュビシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥または冬鳥として渡来する。</p> <p>【生態】浜、干潟、河口に生息する。数羽から数十羽でいることが多いが、ときには数百羽の群れになる。ハマトビムシなどをついばむ。繁殖地では、アブ、カ、ガガンボなどの昆虫の幼虫・成虫を食べるが、まだ動物が活動しない時期には岩につくコケ類や海藻の芽なども食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖するが番の関係は短く、抱卵前に1巣卵数がそろそろと解消する。巣は、まるでチドリ類のように覆いのない開かれたところにつくり、地上の窪みにヤナギ類の枯れ葉や植物片などを敷く。1巣卵数は3～4個で、ほとんどは4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の水際部で4例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるミュビシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるミュビシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(27) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	トウネン
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来するが、本州中部以南では少数が越冬する。</p> <p>【生態】干潟、河口、砂浜、水田、湿地に生息する。ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫、小貝、草の種子などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は多分5～7月。繁殖の詳細ことはまだわかっていないが、多分一夫一妻で繁殖する。1巣卵数は3～4個で、4個の場合が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて会場予定地内外の水際部で168例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるトウネンへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるトウネンへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(28) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オジロトウネン
生態概要	<p>【分布】旅鳥または冬鳥として九州以北に渡来する。関東以西では少数が越冬。</p> <p>【生態】水田、湿地、河川、ため池などに生息する。双翅類の幼虫・成虫などの昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類などを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～7月。巣は灌木の根元の地上につくり、浅い窪みに枯れ草で内張りをする。1巣卵数は2～5個で、ほとんどが4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季、秋季、冬季に会場予定地の水際部で2例、会場予定地外で3例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、秋季、冬季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオジロトウネンへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオジロトウネンへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18 (29) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ウズラシギ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として渡来する。近年は昔ほど数は多くない。</p> <p>【生態】 水田、湿地、埋立地、ハス田、干潟に生息する。小型の甲殻類、軟体動物、双翅類などの昆虫、種子などをついばんで食べる。繁殖の詳しいことはわかっていない。巣は小丘上の乾いた場所の蘚類の窪みにあり、1 巣卵数は 4 個。抱卵期になると雄はいなくなり、雌のみが抱卵する。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 春季から夏季にかけて会場予定地内外の水際部で 4 例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、繁殖前期、夏季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるウズラシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲 1 区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲 1 区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SS の除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水は pH 調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるウズラシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(30) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	サルハマシギ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥として春と秋に飛来する。</p> <p>【生態】 干潟や水田、湿地で見られる。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 秋季に会場予定地の水際部で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 秋季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるサルハマシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の水際部で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるサルハマシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(31) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ハマシギ
生態概要	<p>【分布】旅鳥または冬鳥として渡来する。</p> <p>【生態】干潟、河口、砂浜、埋立地、水田に生息する。水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなどの甲殻類を食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖するが、同時の一夫二妻、継時的一妻多夫などの記録がある。巣は、草や灌木の根元に浅い窪みをつくり、枯れ草や藓類を敷く。1巣卵数は3～4個で、4個の場合が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季から秋季にかけて、会場予定地内外の水際部で366例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季、繁殖前期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるハマシギへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるハマシギへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(32) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	キリアイ
生態概要	<p>【分布】旅鳥として渡来する。かつては大群で見られたが近年は少ない。</p> <p>【生態】干潟、河口、砂浜、水田、埋立地に生息する。昆虫、軟体動物、ミミズなどを食べる。国内では繁殖しない。繁殖期は6～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上で、コケ類や草、矮性灌木などのクッションの上につくる。1巣卵数は3～4個で、4個の場合が多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の水際部で1例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるキリアイへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地で確認されたが、旅鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるキリアイへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(33) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ツバメチドリ
生態概要	<p>【分布】 旅鳥または夏鳥として渡来し、局地的に繁殖する。</p> <p>【生態】 農耕地、埋立地、干潟、草地に生息する。昆虫食が中心で、トンボ類や直翅類を大いに食べる。繁殖期は3～6月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上の窪みだが、窪みを掘るかどうかはわかっていない。1巣卵数は3～4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 繁殖後期及び夏季に会場予定地の草地上空で2例、会場予定地外で6例が確認された。</p> <p><確認時期> 繁殖後期、夏季</p> <p><確認位置の環境> 草地、裸地</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または夏鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中に会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるツバメチドリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、旅鳥または夏鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地や裸地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるツバメチドリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(34) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ズグロカモメ
生態概要	<p>【分布】 冬鳥として関東地方以西に局地的に渡来する。九州北部に多い。</p> <p>【生態】 干潟、河口などに生息するが、干潟への依存性が強い。越冬地では、内湾や入江の干潟の水辺を往復飛翔して餌を探す。主にカニを主食とする。国内では繁殖しない。正確な繁殖地、繁殖地の環境、繁殖生態などはまだわかっていない。繁殖地は内陸の水域であろうと考えられている。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季に会場予定地の水際部で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季</p> <p><確認位置の環境> 水際部</p> <p><事業計画地の利用状況> 飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地上空で飛翔が確認されたのみであり、冬鳥として一時的に飛来したものと考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるズグロカモメへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地上空で飛翔が確認されたのみであり、冬鳥として一時的に飛来したものと考えられる。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるズグロカモメへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(35) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ウミネコ
生態概要	<p>【分布】 留鳥または漂鳥として沿岸、港、河口、干潟などに生息する。北海道では夏鳥、四国以南は冬鳥。</p> <p>【生態】 沿岸、港、河口、干潟などに生息する。餌は小型の魚、甲殻類、動物の死体、漁船や漁港で捨てられる魚の破片等。繁殖地が日本とその近海に限られる。成鳥は繁殖期には繁殖地付近にいるが、若鳥は繁殖地に行かず各所で越冬するものが多い。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上に作り、1巣卵数は1～4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 夏季及び秋季に会場予定地の開放水面で2例、周辺海域、会場予定地外及び舞洲北側の堤防で85例が確認された。</p> <p>【舞洲】 舞洲北側及び西側の海上で5例が確認された。</p> <p><確認時期> 夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境> 開放水面、周辺海域、堤防</p> <p><事業計画地の利用状況> 水面での休息</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内、会場予定地外の防波堤及び海上で確認された。</p> <p>本種が確認された場所のうち防波堤や海上は、開催期間中も本種が利用することが可能と考えられる。また、会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、夢洲の会場予定地で確認された場所の一部はウォーターワールドとして整備される予定であることから、開催期間中もこれらの水辺を利用することが可能と考えられる。さらに、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。加えて、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるウミネコへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内、会場予定地外の防波堤及び海上で確認された。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面やウォーターワールドの沈殿池においては、工事中も水辺を利用することが可能と考えられる。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中に野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、ウォーターワールドの整備においては、関係機関などと調整し、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画である。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画である。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者は工事区域外の開放水面や堤防等への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるウミネコへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(36) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コアジサシ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として本州以南に渡来する。</p> <p>【生態】海岸、河口、河川、湖沼などに生息する。体長10cmぐらい以下の魚をとる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は、捕食者が近づきにくい小島や中州などの砂地に浅い窪みを掘ってつくる。1巣卵数は1～4個で、3個が多い。大阪市内及びその周辺では、大阪市此花区北港緑地2丁目（舞洲）、大阪市住之江区（南港野鳥園）、大阪市旭区毛馬町、堺市築港新町4丁目（堺7-3区埋立地）等でも繁殖が確認されている。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から繁殖後期にかけて会場予定地内外の主に裸地（砂礫地）で繁殖に係わる鳴き交わし、求愛給餌、抱卵が確認され、夢洲周辺の海上も含めて延べ456例が確認された。</p> <p>【舞洲】春季から繁殖後期にかけて舞洲周辺の海上を中心に79例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、繁殖後期 <確認位置の環境>裸地（砂礫地）、周辺海域 <事業計画地の利用状況>抱卵や抱卵と思われるとまり、求愛給餌、交尾、鳴き交わし、歩行、飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で営巣及び抱卵が確認されたが、会場予定地周辺の大阪湾岸域でも繁殖が確認されている。</p> <p>周辺海域では飛翔が確認され、採餌しているものと考えられるが、開催期間中の排水は放流基準を満たす処理を行った後に下水道へ放流する計画であることから採餌への影響は回避される。また、夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。さらに、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中に会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。また、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコアジサシへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で営巣及び抱卵が確認されたが、会場予定地周辺の大阪湾岸域でも繁殖が確認されている。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>博覧会の工事では会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外は改変しない。また、周辺海域では飛翔が確認され、採餌しているものと考えられるが、海域の工事は岸壁の小規模な工事に限られ、本種が確認された周辺海域では実施しない。</p> <p>工事の実施にあたり飛来が確認された場合には、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」（平成26年 環境省自然環境局野生生物課）に基づき、防鳥ネットによる被覆等の営巣防止策を実施し、営巣が確認された場合には、付近を原則立入禁止とする等、配慮、対策を行っていくことにより影響が低減されると考えられる。また、工事関係者による工事区域外の砂礫地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコアジサシへの影響は低減されていると考えられる。</p>

表 5.10.18(37) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ミサゴ
生態概要	<p>【分布】留鳥として北海道、南千島、本州、佐渡、舩倉島、隠岐、見島、四国、九州、対馬、伊豆諸島、トカラ列島、奄美諸島などで繁殖する。小笠原諸島、琉球諸島、大東諸島では冬鳥。</p> <p>【生態】海岸部の崖地や、小島の樹上、内陸でもダムや河川付近の山地の樹上などに生息する。ボラ、スズキ、トビウオ、イワシなどの魚類だけを食べる。繁殖期は4～7月、年に1回、一夫一妻で繁殖する。岩棚などに流木や枯れ枝を積んで、かなり大きな皿形の巣を雌雄共同でつくり、同じ番が何年も同じ巣を修復しながら利用することが多い。地面に巣をつくることもある。1巣卵数は2～3個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季から秋季にかけて会場予定地内外の人工構造物上や水際部及び周辺の海上で50例が確認された。</p> <p>【舞洲】冬季、春季及び秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外及び周辺の海上で7例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季、繁殖前期、夏季、秋季 <確認位置の環境>開放水面、水際部、人工構造物 <事業計画地の利用状況>飛翔、とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>周辺海域では採餌が確認されたが、開催期間中の排水は放流基準を満たす処理を行った後に下水道へ放流する計画であることから採餌への影響は回避される。本種は会場予定地外、（仮称）舞洲駐車場予定地外で確認されていること及び近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるミサゴへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>会場予定地外の夢洲1区の内水面では工事は行われず、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても会場予定地外の夢洲1区の内水面や野鳥園を休息等に利用することが可能と考えられる。</p> <p>本種の主要な餌生物は魚類であり、会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において採餌は確認されなかったことから、会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地は本種の主要な生息環境ではないと考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の水際部等への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるミサゴへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18 (38) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	チュウヒ
生態概要	<p>【分布】冬鳥または留鳥として全国に分布する。本州中部以北のヨシ原で局地的に繁殖する。近年では九州北部から西日本でも少数の繁殖が確認されている。</p> <p>【生態】平地の草地、湖沼、ヨシ原のある河川、農耕地、干拓地の湿地などに生息する。ネズミ、小鳥類、カエルなどの小動物を捕獲する。晩秋の干拓地ではカマキリなどの昆虫も食べる。また、用水路に浮いた魚や猫の死体を引き裂いて食べることもあり、基本的には捕えられるものは何でも餌にしているようである。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。地上に枯れたヨシやスキなどの茎を粗雑に積み重ねて基礎部分をつくり、その上部に軟らかなイネ科の枯れ葉を皿形に浅く敷きつめて産座する。1 巣卵数は5～7個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季及び春季に会場予定地内外の草地や開放水面上空で8例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季</p> <p><確認位置の環境>開放水面、草地</p> <p><事業計画地の利用状況>飛翔、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、冬季及び春季における飛翔のみの確認であり繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる小鳥類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるチュウヒへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、冬季及び春季における飛翔のみの確認であり繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の開放水面や草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるチュウヒへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(39) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ハイタカ
生態概要	<p>【分布】 留鳥として四国以北に分布する。九州以南では冬鳥。繁殖は、北海道と本州の一部で確認されているが、他地域では不明なところが多い。春や秋の渡りの時期に渡りがみられる。</p> <p>【生態】 本州中部ではやや標高の高い山地の森林で繁殖する。冬は全国の平地から山地の林、農耕地、牧草地、河川、湖沼などで見られる。主にツグミくらいまでの小鳥を狩るが、ネズミヤリス、ヒミズなどを捕えることもある。産卵期は5月、一夫一妻で繁殖する。カラマツの枝を主材に、皿形の巣をつくる。1巣卵数は4～5個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季に会場予定地内外の草地上空で1例が確認された。</p> <p>【舞洲】 冬季に（仮称）舞洲駐車場予定地内上空で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季 <確認位置の環境> 草地 <事業計画地の利用状況> 飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外上空及び（仮称）舞洲駐車場予定地内上空で確認されたが、冬季における飛翔のみの確認であり、採餌や繁殖に係わる行動は確認されなかった。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるハイタカへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外上空及び（仮称）舞洲駐車場予定地内上空で確認されたが、冬季における飛翔のみの確認であり、採餌や繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるハイタカへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(40) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コミミズク
生態概要	<p>【分布】 冬鳥として全国に渡来する。南西諸島では稀な冬鳥。</p> <p>【生態】 平地から山地の草原、農耕地、河原、埋立地などに生息する。ドブネズミ、ヤチネズミ、ハタネズミ、アカネズミなどの齧歯類、ヒバリ、ツグミ、スズメなどの小鳥や昆虫を食べる。国内では繁殖しない。北ヨーロッパの繁殖期は5～8月、一夫一妻で繁殖する。巣は地上の窪みを利用し、草を敷くこともある。1巣卵数は4～8個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 春季に会場予定地の草地上空で1例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季</p> <p><確認位置の環境> 草地</p> <p><事業計画地の利用状況> 飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、春季に飛翔1例のみの確認で、繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる小鳥類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコミミズクへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、春季に飛翔1例のみの確認で、繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコミミズクへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(41) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	チョウゲンボウ
生態概要	<p>【分布】主に北海道、本州中部以北の平地から山地の崖地、河川の崖地、橋げた、社寺林の樹洞等で繁殖する。西日本では主に冬鳥だが、近年、繁殖地が南下傾向にあり、西日本でも繁殖例が増加している。</p> <p>【生態】農耕地、河川敷の草地、埋立地等の荒地に生息する。小哺乳類や小鳥を捕えるが、とくにネズミ類が主要食である。繁殖期は4～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は崖の洞穴やカラス等、他の鳥の古巣につくる。最近、鉄橋、ビルディング等人工構築物への営巣が知られている。1巣卵数は4～6個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季及び繁殖後期から秋季にかけて会場予定地内外の主に裸地や人工構築物上空で15例が確認された。</p> <p>【舞洲】繁殖後期及び夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外の草地上空で3例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、繁殖後期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>草地、裸地、水際部</p> <p><事業計画地の利用状況>飛翔、とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は春季を除いて会場予定地内外で確認され、飛翔、とまり、採餌が確認されたが繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は会場予定地外及び近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる小鳥類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるチョウゲンボウへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は春季を除いて会場予定地内外で確認され、飛翔、とまり、採餌が確認されたが繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地、裸地、水際部への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるチョウゲンボウへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(42) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ハヤブサ
生態概要	<p>【分布】 留鳥として北海道から九州に分布する。</p> <p>【生態】 平地から山地の海岸、河口、河川、湖沼、農耕地などに生息する。獲物はほとんどがヒヨドリ級の中型の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕える。海岸や山地の断崖や岸壁の岩棚や横穴などで繁殖する。近年、市街地のビルの窓辺や、鉄塔の鉄骨の横組の隙間などに営巣することもある。産卵期は日本海側南西部では3月上旬から4月上旬、東北地方以北では3月下旬から4月中旬が平均的である。しかし、同一地域にあっても産卵時期にずれが生じる場合が多く、隣接する繁殖地で産卵日が30日ずれていた例がある。一夫一妻で繁殖する。海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚の窪みに、脚で砂泥や草の根などをかき出して産座をつくり直接産卵する。1巣卵数は3~4個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季及び春季に会場予定地内外の主に裸地上空で5例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季、春季</p> <p><確認位置の環境> 主に裸地</p> <p><事業計画地の利用状況> 飛翔、採餌、とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、会場予定地内では飛翔のみの確認で、繁殖に係わる行動は確認されなかった。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる小鳥類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるハヤブサへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、会場予定地内では飛翔のみの確認であり、繁殖に係わる行動や採餌は確認されなかった。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の裸地等への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるハヤブサへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(43) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ヒバリ
生態概要	<p>【分布】留鳥として北海道から九州に分布する。北海道では夏鳥。沖縄では数少ない旅鳥または冬鳥。</p> <p>【生態】草地、農耕地、河川敷、牧草地などに生息する。地上を交互歩行しながら餌をあさり、草の実や昆虫をついばむ。非繁殖期には河原の土手など、乾燥した場所で草の実を食べる。2月下旬ごろから徐々に繁殖地に渡来し、4月初旬から7月まで、年に1~3回、一夫一妻で繁殖する。巣は椀形の外径10cmぐらいで、よく草の根元につくる。1巢卵数は2~5個で、4個が最も多い。</p>
確認状況	<p>【夢洲】調査期間をとおして会場予定地内外の主に裸地や草地で258例が確認された。</p> <p>【舞洲】調査期間をとおして（仮称）舞洲駐車場予定地内外の主に裸地や草地で27例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季、春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季、冬季</p> <p><確認位置の環境>草地、裸地</p> <p><事業計画地の利用状況>飛翔、とまり、採餌、囀り、縄張り争いと思われる行動</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認された。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。さらに、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるヒバリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認された。</p> <p>夢洲1区の内水面付近においては、草刈りの実施等の対策を大阪市等と調整することにより、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。また、本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地や裸地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるヒバリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(44) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオムシクイ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として本州、四国、九州に飛来する。</p> <p>【生態】亜高山帯の針葉樹林等で見られるが、春と秋の渡りの時期には平地林や公園などでみられる。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の草地で1例が確認された。</p> <p>【舞洲】秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>草地</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は秋季に会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地外で確認されたが、確認例はそれぞれ1例のみであり、渡り途中の一時的な利用と考えられる。</p> <p>本種は、（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオオムシクイへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は秋季に会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地外で確認されたが、確認例はそれぞれ1例のみであり、渡り途中の一時的な利用と考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオムシクイへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(45) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオヨシキリ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として九州以北に渡来する。</p> <p>【生態】河口、河川、湖沼のヨシ原などに生息する。茎から茎へと移動しながら細く尖ったくちばしで昆虫を捕えるが、空中に飛び出して飛んでいる昆虫をフライングキャッチすることもある。繁殖期は5～8月、年に1～2回繁殖するが、本州中部以北では年に1回の繁殖がふつう。一夫多妻で繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて椀形の巣をつくる。1巣卵数は4～6個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季から秋季にかけて会場予定地の草地で1例、会場予定地外の草地で8例が確認された。</p> <p>【舞洲】繁殖前期に（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で1例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>草地</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり、轉り</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地で確認された。</p> <p>本種は、会場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオオヨシキリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地で確認された。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオヨシキリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(46) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	セッカ
生態概要	<p>【分布】 留鳥または漂鳥として本州以南に分布する。北方のものは冬に暖地へ移動する。</p> <p>【生態】 平地の草原、河川、農耕地、牧草地など開けた環境に生息する。植物の茎を移動しながら、昆虫、クモ類を食べる。繁殖期は4月から9月中旬と長く、年に2～3回繁殖するが、番の関係が極めて希薄な一夫多妻である。イネ科植物の葉に巣を作る。1巣卵数は4～8個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 調査期間をとおして会場予定地内外の主に草地で143例が確認された。</p> <p>【舞洲】 春季から繁殖後期にかけて（仮称）舞洲駐車場予定地内外の主に草地で10例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季、春季、繁殖前期、繁殖後期、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境> 主に草地</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、飛翔、轉り、縄張り争いと思われる行動</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認された。</p> <p>本種は、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるセッカへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認された。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。また、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるセッカへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(47) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コムクドリ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として北海道から本州中部に渡来する。他地域では旅鳥として通過する。</p> <p>【生態】平地から山地の林、農耕地、果樹園など明るい林に生息する。動・植物を食べる。動物質ではクモ類と昆虫が主で、植物質ではサクラ、ヤマザクラ、カキ、ブドウなどの果実をついばみ、エノキやムクノキの果実なども食べる。秋の渡りの時期には、ミズキやアカメガシワなどの木の実をよく食べる。繁殖期は4月中旬～7月、年に1～2回、一夫一妻で繁殖する。樹洞、建築物の屋根および間隙、キツツキ類の古巣穴、巣箱などに営巣する。1巣卵数は3～7個である。</p>
確認状況	<p>【舞洲】夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地の樹林で2例、秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>夏季、秋季 <確認位置の環境>樹林 <事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコムクドリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の樹林への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコムクドリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18 (48) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ノビタキ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として北海道から本州中部に渡来する。渡りの時期には、本州以南の河川敷、農耕地、草地などを数羽～十数羽の群れで移動中に立ち寄る姿を見かけることがある。</p> <p>【生態】平地から山地の牧草地、草地、河川などの開けた環境に生息する。草原の中で突出している灌木の枝の上や枯れたススキなどの茎の上、それもよく目立つ頂に止まり、そこから出撃するように飛び立って昆虫を捕える。繁殖期は5～8月、一夫一妻で繁殖する。巣は草むらの中の窪みや石の下の窪みなど、地上の隠されたところにつくり、たいいてい土くれ、石、草などから成るひさし型のカバーがある。1巣卵数は3～7個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の草地で2例、会場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季 <確認位置の環境>草地 <事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、秋季のみの確認であり、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は会場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるノビタキへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外で確認されたが、秋季のみの確認であり、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるノビタキへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(49) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	コサメビタキ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として北海道から九州に分布する。</p> <p>【生態】平地から山地の落葉広葉樹林、針広混交林などに生息する。渡りの時期には、河畔林、都市部の公園、庭なども通過する。木の枝にじっと止まり、空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブなどの昆虫をフライングキャッチ法で捕獲する。まれに木についている青虫も食べる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮などで椀形の巣をつくる。1巣卵数は4～5個である。</p>
確認状況	<p>【舞洲】春季及び秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外の樹林で3例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、秋季</p> <p><確認位置の環境>樹林</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は春季及び秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、夢洲及び舞洲には本種の生息に適した樹林は存在しないことから、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコサメビタキへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は春季及び秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、夢洲及び舞洲には本種の生息に適した樹林は存在しないことから、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の樹林への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコサメビタキへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(50) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオルリ
生態概要	<p>【分布】夏鳥として北海道から九州に生息する。渡りの時期には、日本海側の島嶼や、市街地の公園、庭園なども通過する。</p> <p>【生態】平地から山地の落葉広葉樹林、針広混交林、溪流沿いの暗い林などに生息する。フライングキャッチ法で空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブ、羽化した水生昆虫などを捕える。繁殖期は5～8月、年に1回、一夫一妻で繁殖する。崖地、溪流近くの落葉広葉樹林内の岩または土の崖地に営巣する。1巣卵数は3～5個である。</p>
確認状況	<p>【舞洲】春季に（仮称）舞洲駐車場予定地外で1例、秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地の樹林で1例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、秋季 <確認位置の環境>樹林 <事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、夢洲及び舞洲には本種の生息に適した樹林は存在しないことから、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。また、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。さらに、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるオオルリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は（仮称）舞洲駐車場予定地内外で確認されたが、繁殖に係わる行動は確認されず、夢洲及び舞洲には本種の生息に適した樹林は存在しないことから、渡り途中の一時的な利用であると考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の樹林への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオルリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(51) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	ホオアカ
生態概要	<p>【分布】北日本の草地、西南日本では高原で繁殖する。北方の個体は冬季に暖地へ移動し、低地から山地の草地、河川敷、農耕地に生息する。府内では繁殖記録は無く、各地の河川敷や農耕地で越冬する。</p> <p>【生態】平地から山地の草原、農耕地、干拓地などに生息する。草が茂る地上や低木、藪の茂みで採食する。冬は草むらに隠れて、近くの水田の土手や土手際に出てきて、地上を歩いてイネ科、タデ科などの小粒で乾いた種子などをつまみ上げて食べる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は草むらの間や草株の上、藪の枝の上などに置くようにつくり、草や葉の茂みにうまく隠されている。巣は椀形で、外装には枯れ草、細根を、内装には細い茎や根、シダ類の仮根、獣毛などを使う。1巣卵数は3～6個である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季に会場予定地の草地で3例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季 <確認位置の環境>草地 <事業計画地の利用状況>飛翔</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地で確認されたが、冬季のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるホオアカへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地で確認されたが、冬季のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるホオアカへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(52) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	カシラダカ
生態概要	<p>【分布】本州以南に冬鳥として渡来し、北海道では旅鳥。繁殖地はスカンジナビア半島からカムチャツカ半島までのユーラシア高緯度地方。大阪府内では10月中旬から4月に観察される。</p> <p>【生態】冬の日本では林縁や水田、湿っぽい荒地などにみられる。草むらや地上で種子をついばんで食べ、水田では落穂やエノコログサなどの種子を拾って食べる。雛には鱗翅目の幼虫などの昆虫類やクモ類を与える。採食地は、ねぐらから離れた水田や畑地で、近くに隠れ家となる林や低木のあるところである。</p>
確認状況	<p>【夢洲】大阪自然環境保全協会の調査において3月に少数が樹木で確認された。</p> <p><確認時期>春季（3月）</p> <p><確認位置の環境>樹木</p> <p><事業計画地の利用状況>とまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は夢洲の樹木で確認されたが、春季（3月）のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>静けさの森については、高木を含めた木々により、一定の緑量を確保する計画であることから、開催中も本種が一時的なとまりや休息に利用可能であると考えられる。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるカシラダカへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は夢洲の樹木で確認されたが、春季（3月）のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるカシラダカへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(53) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	アオジ
生態概要	<p>【分布】 留鳥または漂鳥として北海道から本州中部の平地から山地の林、林縁、草地などに生息する。</p> <p>【生態】 北海道から本州中部の平地から山地の林、林縁、草地などに生息する。本州中部以南では主に冬鳥として平地から山地の林、林縁、市街地の公園、河川敷、草地、ヨシ原などに生息する。ほとんど地上で採食する。タデ科、イネ科などの種子、ズミ、イボタノキなどの果実、夏には昆虫の成虫・幼虫も食べる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣づくりは雌のみが行い、地上1～2m ぐらいの藪の中の枝の叉上に乗せるようにつくる。1 巣卵数は3～6 個、抱卵は雌のみが行い、雛は12 日ぐらいで孵化し、雌雄共同の給餌を受け、9～14 日ぐらいで巣立つ。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 冬季及び春季に会場予定地内外の草地で15 例が確認された。</p> <p>【舞洲】 冬季及び春季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外の草地で35 例が確認された。</p> <p><確認時期> 冬季、春季</p> <p><確認位置の環境> 草地</p> <p><事業計画地の利用状況> とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>本種は会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に加えて近隣の野鳥園において確認されていることから、開催期間中においてもこれらの場所を利用することが可能と考えられる。また、グリーンワールド及び静けさの森の植栽は、本種の餌となる昆虫類等が開催中も利用することが可能と考えられる。</p> <p>空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用し適切な維持管理を行い、建築物の外壁等は可能な限り防音性の高い資材を採用する。さらに、照明設備は適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場外への影響を出来る限り低減するよう配慮する。加えて、来場者の車両は原則として主要な通行ルート以外を通行しないよう誘導することにより、来場者の車両による騒音等の影響を可能な限り低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるアオジへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるアオジへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(54) 重要な鳥類の予測結果

予測対象	オオジュリン
生態概要	<p>【分布】北海道に夏鳥として渡来し、本州中部以南で越冬する。湖沼、河川敷、農耕地などのヨシ原に生息する。府内では淀川河川敷のヨシ原に生息するほか、埋立地や池沼の小規模なヨシ原にも渡来する。</p> <p>【生態】ヨシ原の地上や茎で採食する。高い草の茎に斜めに止まったり、2本の茎の間にまたがって止まったり、垂直の茎を上下にずれるように移動したりできる。こうして、枯れたヨシの茎で葉鞘をむしったり、はぎとったりして越冬中のワタムシ類をとり出す。また、ヨシ草原は湿った地面がよく出ていて、落ちている種子を見つけやすい。稲刈り後の2次出穂の種子をついばむため、ヨシ原近くの水田にもよく出てくる。繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。巣は草株の根元の地上や草株の上、藪の小枝の中などに置くようにつくる。巣づくりは雌のみが行い、雄はついて回り、メイトガードをする。1巣卵数は4～5個、雌雄交替で抱卵する。</p>
確認状況	<p>【夢洲】冬季に会場予定地内外の草地や湿地で168例が確認された。</p> <p>【舞洲】冬季に（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で1例、（仮称）舞洲駐車場予定地外で1例が確認された。</p> <p><確認時期>冬季 <確認位置の環境>草地、湿地 <事業計画地の利用状況>とまり、採餌</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが、冬季のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。博覧会は冬季には開催されないことから、施設の利用（施設の供用）によるオオジュリンへの影響はないと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地内外で広く確認されたが、冬季のみの確認であり、冬鳥として一時的に利用していたものと考えられる。</p> <p>本種は近隣の野鳥園において確認されていることから、工事中においても野鳥園を利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地や湿地への不要な立ち入りを禁止し、騒音及び振動の発生源となる建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用する。さらに、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるオオジュリンへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18(55) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	マイコアカネ
生態概要	<p>【分布】北海道、本州、四国、九州に分布する。</p> <p>【生態】平地から丘陵地の水生植物の豊富な池沼に生息する。流水域に生息することもある。また海岸部にできた池に見られることもある。幼虫は沈積物の陰や砂泥上にうずくまっている。体長約 29～38 mm。翅胸側面に複雑な斑紋がある。成虫出現期は6月中旬～11月下旬。9月下旬から10月に多い。</p>
確認状況	<p>【舞洲】秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で1例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>草地</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内で成虫が確認されたが、調査範囲の水たまり等では本種の幼虫は確認されなかった。</p> <p>植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を本種が利用することも可能と考えられる。また、草地は（仮称）舞洲駐車場予定地周辺にも存在することから、本種が開催期間中に利用することは可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるマイコアカネへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内の草地で成虫が確認されたが、調査範囲の水たまり等では本種の幼虫は確認されなかった。また、草地は（仮称）舞洲駐車場予定地周辺にも存在することから、本種が工事中に一時的に利用することは可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるマイコアカネへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(56) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	コオイムシ
生態概要	<p>【分布】本州から九州に分布する。</p> <p>【生態】水深の浅い開放的な止水域に生息する。体長 17～20 mm。オタマジャクシ、小魚、ヤゴ、巻貝などを捕食する。オスが背中で卵塊を保護する有名な昆虫である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】昆虫類調査では春季～秋季に会場予定地内外の水際部、湿地及び水たまりで 13 例が確認され、底生生物調査では夏季に会場予定地外で 1 例が確認された。</p> <p>【舞洲】夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地の水たまりで 1 例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>水際部、湿地、水たまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地の水たまりで確認されたが、いずれの地点も窪地に一時的にできた水たまりである。</p> <p>開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコオイムシへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地の水たまりで確認されたが、いずれの地点も窪地に一時的にできた水たまりである。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の湿地や水たまりへの不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコオイムシへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(57) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	ケシゲンゴロウ
生態概要	<p>【分布】北海道から南西諸島に分布する。</p> <p>【生態】止水域に生息し、落ち葉の堆積した薄暗い場所～開けた水田まで、様々な環境で見られる。かつては普通種の代表であったが、2000年代以降、全国的に減少している。体長3.8～5mm。体型は丸形。上翅に黒色紋を持つ。</p>
確認状況	<p>【夢洲】昆虫類調査では春季～秋季に会場予定地内外の湿地や水たまりで8例、底生生物調査では春季及び夏季に会場予定地外で21例が確認された。</p> <p><確認時期>春季、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>湿地、水たまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の水たまりで確認されたが、会場予定地では1例のみの確認であった。</p> <p>本種は比較的様々な環境を利用することから、開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるケシゲンゴロウへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外の湿地や水たまりで確認されたが、会場予定地では1例のみの確認であった。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の湿地や水たまりへの不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるケシゲンゴロウへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5. 10. 18(58) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	コガムシ
生態概要	<p>【分布】北海道、本州、四国、対馬に分布する。</p> <p>【生態】かつては平野部の水田に生息する代表的な水性甲虫であり、夏には多くの成虫が灯火に飛来していた。成虫は水草を食べ、幼虫は肉食性。水田や河川敷の水たまりなど不安定な止水域で繁殖をするが、ため池など安定した水域では繁殖しない。</p>
確認状況	<p>【夢洲】夏季と秋季に会場予定地内外の湿地や水たまりで6個体が確認された。</p> <p>【舞洲】夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地の水たまりで1例が確認された。</p> <p><確認時期>夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境>湿地、水たまり</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地で確認されたが、いずれの地点も窪地に一時的にできた湿地や水たまりである。</p> <p>開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を本種が利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるコガムシへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内外及び（仮称）舞洲駐車場予定地で確認されたが、いずれの地点も窪地に一時的にできた湿地や水たまりである。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の湿地や水たまりへの不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるコガムシへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(59) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	チャイロムナボソコメツキ
生態概要	<p>【分布】 四国を除く、青森県から福岡県までの河川敷に分布する。</p> <p>【生態】 体長 8.0~9.5mm。細長く筒型に近く平行状で艶消し状。黄褐色で頭部と前胸背板は多少とも濃褐色になる傾向が強く、まれに上翅の会合線と側縁が暗色となり、一般にメスの方が淡色で、体毛は白黄色、細長く直毛で密。河川敷の堆積物などの下で年間を通して見られ、灯火にも来集する。植物根系を食すると思われる。</p>
確認状況	<p>【夢洲】 夏季に会場予定地の草地で 1 例が確認された。</p> <p><確認時期> 夏季</p> <p><確認位置の環境> 草地</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の草地で 1 例のみ確認されたが、草地は夢洲周辺にも存在する。開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を本種が利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるチャイロムナボソコメツキへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の草地で 1 例のみ確認されたが、草地は夢洲周辺にも存在する。本種の主要な生息環境は河川敷であるが、周辺には河川敷は存在しない。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるチャイロムナボソコメツキへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(60) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	ツシマヒメサビキコリ
生態概要	<p>【分布】大阪府、兵庫県、山口県などの瀬戸内海沿岸と島根県隠岐、福岡県博多、長崎県野崎島、壱岐など日本海沿岸に広く分布。</p> <p>【生態】体長 6.5～9.5mm。扁平幅広の体形で多少肥厚気味。背面は黒褐色で触角、肢部及び前胸背板と上翅の周辺部は多少とも赤褐色、腹面各部も赤褐色部が多い。詳細な生態は不明である。</p>
確認状況	<p>【夢洲】春季～秋季に会場予定地内外の草地や裸地で 326 例が確認された。</p> <p>【舞洲】春季～秋季に（仮称）舞洲駐車場予定地内外の草地や裸地で 146 例が確認された。</p> <p><確認時期> 春季、夏季、秋季</p> <p><確認位置の環境> 草地、裸地</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地内及び（仮称）舞洲駐車場予定地内で確認されたが、会場予定地周辺及び（仮称）舞洲駐車場予定地周辺でも確認されたことから、開催期間中も本種が利用することは可能と考えられる。</p> <p>開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるツシマヒメサビキコリへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地の草地や裸地で確認されたが、会場予定地周辺及び（仮称）舞洲駐車場予定地周辺でも確認されたことから、工事中も本種が利用することは可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地や裸地への不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるツシマヒメサビキコリへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(61) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	カワイヒラアシコメツキ
生態概要	<p>【分布】本州、九州、奄美大島、屋久島に分布する。</p> <p>【生態】黒潮による分布拡大をはかっている種である。</p>
確認状況	<p>【舞洲】夏季に（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で1個体が確認された。</p> <p><確認時期>夏季</p> <p><確認位置の環境>草地</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は、（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で確認されたが、草地は（仮称）舞洲駐車場予定地周辺にも存在するため、開催期間中も本種が利用することが可能と考えられる。</p> <p>開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールド等の空間を本種が利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるカワイヒラアシコメツキへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は、（仮称）舞洲駐車場予定地の草地で確認されたが、草地は（仮称）舞洲駐車場予定地周辺にも存在するため、工事中も本種が利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるカワイヒラアシコメツキへの影響は小さいと予測される。</p>

表 5.10.18(62) 重要な昆虫類の予測結果

予測対象	キバラハキリバチ
生態概要	<p>【分布】日本国内では本州、四国、九州、種子島に分布する。</p> <p>【生態】成虫は夏～秋にかけておもに河川敷や海浜周辺に生息し、砂地に営巣する。</p>
確認状況	<p>【夢洲】秋季に会場予定地の草地で1例が確認された。</p> <p><確認時期>秋季</p> <p><確認位置の環境>草地</p>
施設の利用（施設の供用）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の草地で確認されたが、草地は夢洲周辺にも存在するため、開催期間中も本種が利用することが可能と考えられる。</p> <p>開催期間中は、植栽樹種として在来種を中心に選定するグリーンワールドの空間を本種が利用することも可能と考えられる。</p> <p>開催期間中の照明設備は、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うことにより事業計画地周辺への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、施設の利用（施設の供用）によるキバラハキリバチへの影響は小さいと予測される。</p>
建設・解体工事中（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）による影響の予測	<p>本種は会場予定地の草地で確認されたが、草地は夢洲周辺にも存在するため、工事中も本種が利用することが可能と考えられる。</p> <p>工事の実施にあたっては、工事関係者による工事区域外の草地への不要な立ち入りを禁止し、夜間工事は最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、夜間照明による事業計画地外への影響を低減する。</p> <p>以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）によるキバラハキリバチへの影響は小さいと予測される。</p>

(5) 評価

① 環境保全目標

陸域動物についての環境保全目標は、「環境への影響を最小限にとどめるよう、環境保全について配慮されていること」、「法令を遵守するとともに、国、大阪府及び大阪市の自然環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと」、「事業計画地周辺における陸域動物の生息環境に著しい影響を及ぼさないこと」、「事業計画地周辺における陸域動物の生息環境の創出に配慮していること」とし、本事業の実施が及ぼす影響について、予測結果を環境保全目標と照らし合わせて評価した。

② 評価結果

会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において確認された重要な陸域動物については、環境の保全及び創造のための措置を確実に実施することにより影響は小さいことが予測された。

なお、本事業の施設供用及び工事期間における鳥類等の動物の生息・生育環境に配慮した整備内容等を整理し、検討した内容は次のとおりである。

- ・夢洲1区の内水面付近を2025年度末まで、草刈り等対策により、裸地を利用する鳥類が利用できるよう検討する。
- ・ウォーターワールド内の沈殿池は、地盤改良の予定がなく、浅場や羽休め等の休息の場として鳥類が利用できる。また、ウォーターワールド南東部は、工事後に移動させた底質土砂の一部等を適切な場所に戻し、2024年度の中頃には水位を回復させることで浅場となり、水辺を利用する鳥類が利用できるよう検討する。
- ・グリーンワールドや静けさの森には緑地を確保することにより動物が利用できるよう検討する。

また、会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において確認された重要な陸域動物については、哺乳類のカヤネズミ、鳥類のコアジサシ等であった。

カヤネズミについては、工事開始前に草刈りを行う際、既存事例に基づき草地の中央付近から周辺へ進め、作業を複数回に分けて実施する。

コアジサシについては、「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」に基づき、防鳥ネットによる被覆等の営巣防止策を実施する。営巣が確認された場合には、付近を原則立入禁止とする等、配慮、対策を行う。また、夢洲1区の内水面付近をコアジサシが利用できるよう、草刈りの実施などの対策を大阪市等と調整し、裸地の形成に努める。

さらに、建設・解体工事にあたっては、低騒音型、低振動型建設機械の採用、夜間工事を行う場合には、工事を最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行うとともに、供用時においても、可能な限り低騒音型及び低振動型の空調設備等の採用や、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置を行い、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に生息・生育する動物への影響を可能な限り低減する。

以上のことから、建設・解体工事（建設機械の稼働及び土地の改変・解体）及び施設の存在（施設の供用）に係る陸域動物に及ぼす環境影響は、実行可能な範囲内でできるかぎり回避または低減されており、環境保全目標を満足するものと評価する。

5.10.2 海域動物

1. 調査

(1) 既存資料調査

① 調査資料

調査した既存資料は、表 5.10.19 に示すとおりである。

表 5.10.19 既存資料一覧（海域動物）

No.	既存資料	対象分類群					対象データの範囲
		動物 プランク トン	魚卵 ・ 稚仔魚	底 生 生 物	付 着 生 物	漁 業 生 物	
1	「大阪湾生き物一斉調査 情報公開サイト」 (大阪湾環境再生連絡会)			○	○	○	天保山および野鳥園臨港緑地 (平成 24～令和元年度)
2	「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書」 (国土交通省近畿地方整備局, 大阪市, 大阪湾広域臨海環境整備センター)			○		○	大阪沖埋立処分場 (平成 17～令和元年度報告書)
3	「処分場自然共生調査（海生生物生育状況調査）報告書」 (大阪湾広域臨海環境整備センター)				○	○	大阪沖埋立処分場 (平成 24～令和 2 年度報告書)
4	「河川環境データベース 河川水辺の国勢調査」 (国土交通省水情報国土データ管理センター)			○	○	○	淀川河口 (平成 16～29 年度) ※純淡水魚は除外した
5	「大阪湾における人工護岸の潮下帯付着生物相について」 (自然史研究 vol. 3, No. 3, 2004 大阪市立自然史博物館)				○		舞洲 (平成 9 年 2～11 月調査)
6	「大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相」(自然史研究 vol. 3, No. 15, 2014 大阪市立自然史博物館、2014)			○	○	○	大阪市周辺海域（地点 A～D） (1950 年代以降)
7	「北港テクノポート線建設事業に係る事後調査報告書」(株式会社 大阪港トランスポートシステム, 大阪市)	○	○	○	○	○	大阪市住之江区周辺海域 (平成 16～19 年度報告書)
8	「海域の水生生物調査結果」 (大阪府ホームページ 令和 3 年 6 月閲覧)	○		○			大阪市周辺海域 (地点 0-1～7, C-3) (平成 20～31 年度)

② 調査結果

確認された海域動物は表 5. 10. 20 に示すとおりであり、動物プランクトンは 11 門 17 綱 20 目 34 科 100 種、魚卵・稚仔魚は 1 門 1 綱 3 目 6 科 8 種、底生生物及び付着生物は 14 門 30 綱 76 目 246 科 656 種、漁業生物は 3 門 6 綱 21 目 62 科 140 種であった。

表 5. 10. 20 既存資料調査結果（海域動物）

項目	確認種数	確認種
海域動物	動物プランクトン 11 門 17 綱 20 目 34 科 100 種	多毛綱の幼生、橈脚亜綱のノープリウス幼生、 <i>Favella ehrenbergii</i> 、 <i>Tintinnopsis</i> sp.、 <i>Synchaeta</i> sp.、 <i>Strombidium</i> sp.、 <i>Oikopleura</i> sp.、 <i>Favella taraikaensis</i> 、 <i>Mesodinium rubrum</i> 等
	魚卵・稚仔魚 1 門 1 綱 3 目 6 科 8 種	カタクチイワシ、サツパ、ナベカ属、イソギンポ科 等
	底生生物及び付着生物 14 門 30 綱 76 目 246 科 656 種	(底生生物) シノブハネエラスピオ、ハナオカカギゴカイ、シズクガイ、カタマガリギボシイソメ、ドロソコエビ属、アシナガゴカイ 等 (付着生物) カンザシゴカイ科、ムラサキイガイ、普通海綿綱、アラレタマキビ、イソギンチャク目、外肛動物門、レイシガイ、キヒトデ、カラマツガイ 等
	漁業生物 3 門 6 綱 21 目 62 科 140 種	ボラ、クロダイ、カサゴ、マナマコ、コノシロ、カタクチイワシ、マダコ、スズキ 等

- 注：1. 動物プランクトンの種類数は、同一種でも発生段階が異なる場合は各々1種として計数した。
 2. 既存資料調査において底生生物と付着生物の区分がされていない場合や、いずれの項目においても出現する種がみられたため、確認種数は双方を併せたものを表記した。
 3. 確認種の欄には比較的出現頻度の高い種を記載した。
 4. 各項目で出現する種は、項目間で重複する場合がある。

(2) 現地調査

① 調査内容

夢洲周辺海域に生息する海域動物の状況を把握するため、現地調査を実施した。

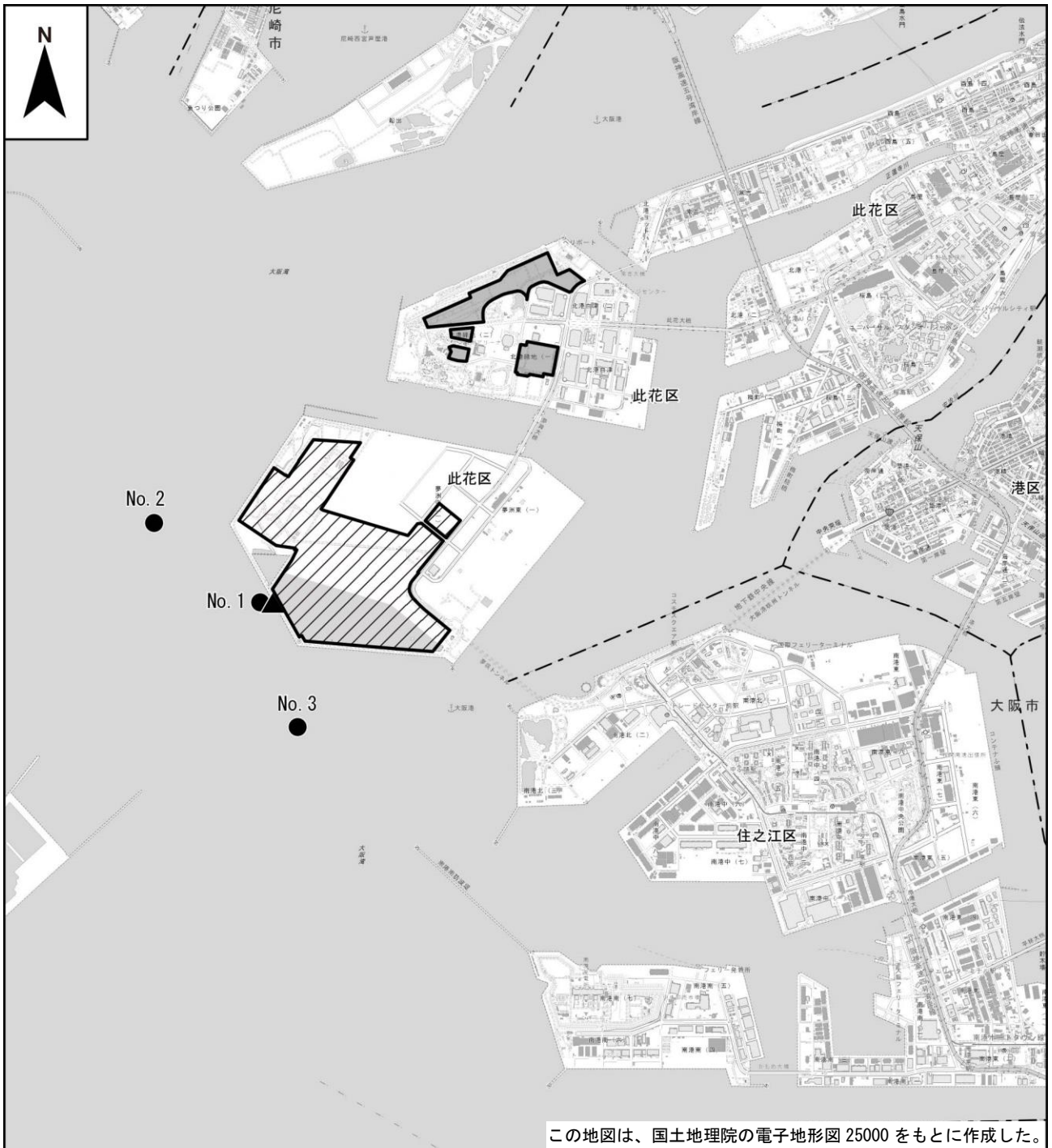
調査概要は表 5. 10. 21、重要な種の生態等に関する参考文献等は表 5. 10. 22、現地調査地点の位置は図 5. 10. 8(1)、(2)に示すとおりである。

表 5. 10. 21 調査概要（海域動物）

調査対象項目	調査対象範囲・地点	調査対象期間	調査方法
動物プランクトン	夢洲周辺の海域 3 地点	冬季：令和 2 年 2 月 7 日 春季：令和 2 年 4 月 28 日 夏季：令和 2 年 8 月 6 日 秋季：令和 2 年 10 月 27 日	北原式定量ネットを用いて海底面上 1m から海面まで鉛直に曳網して採取した。
魚卵・稚仔魚	夢洲周辺の海域 3 地点	冬季：令和 2 年 2 月 7 日 春季：令和 2 年 4 月 28 日 夏季：令和 2 年 8 月 6 日 秋季：令和 2 年 10 月 27 日	稚魚ネットを用いて船舶により表層を水平曳して採取した。
底生生物	夢洲周辺の海域 3 地点	冬季：令和 2 年 2 月 7 日 春季：令和 2 年 4 月 28 日 夏季：令和 2 年 8 月 6 日 秋季：令和 2 年 10 月 27 日	グラブ式採泥器を用い、2 回採泥し、1mm のふるいに残ったマクロベントスを採取した。
漁業生物	夢洲周辺の海域 1 地点	冬季：令和 2 年 2 月 7 日～8 日 春季：令和 2 年 4 月 28 日～29 日 夏季：令和 2 年 8 月 17 日～18 日 秋季：令和 2 年 10 月 27 日～28 日	囲刺網及び底刺網による調査（囲刺網は設置後速やかに回収した。底刺網は設置した翌日に回収した。）
付着生物（動物）	夢洲護岸 1 地点	冬季：令和 2 年 2 月 7 日 春季：令和 2 年 4 月 28 日 夏季：令和 2 年 8 月 6 日 秋季：令和 2 年 10 月 27 日	棒取り法・目視観察により、護岸の平均水面、大潮最低低潮面、大潮最低低潮面-1m の 3 層を調査した。

表 5. 10. 22 重要な種の生態等に関する参考文献等

項目	参考文献
海域動物	1) 「日本近海産貝類図鑑（第二版）」（東海大学出版部、平成 29 年） 2) 「環境と生物指標 2（水界編）」（共立出版株式会社、昭和 50 年） 3) 「Spatial variation in organic matter utilization by benthic communities from Yura River–Estuary to offshore of Tango Sea, Japan」 (Emily S. Antonio, Akihide Kasai, Masahiro Ueno, Nam-il Won, Yuka Ishihi, Hisashi Yokoyama, Yoh Yamashita, Estuarine, Coastal and Shelf Science 86:107–117, 2010) 4) 「環形動物 多毛類Ⅱ」（生物研究社、平成 13 年） 5) 「神奈川近海の干潟・汽水域に産する環形動物多毛類」 (西 栄二郎・田中克彦, 神奈川自然誌資料 (28): 101–107 Mar. 2007) 6) 「Reinstatement of <i>Sigambra hanaokai</i> (Kitamori, 1960) (Polychaeta, Pilargidae), with an overview of the literature on the genus」 (EIJIROH NISHI, KATSUHIKO TANAKA, YOSHIMI FUJIOKA & MASANORI SATO, Zootaxa 1653:57–68, 2007) 7) 「環形動物 多毛類」（生物研究社、平成 4 年） 8) 「原色検索日本海岸動物図鑑 [I]」（保育社、平成 4 年） 9) 「干潟の絶滅危惧動物図鑑 海岸ベントスのレッドデータブック」（東海大学出版会、平成 24 年）



凡例



会場予定地



(仮称) 舞洲駐車場予定地



市区界



植物プランクトン、動物プランクトン、
魚卵・稚仔魚、底生生物 (No. 1~No. 3)



付着生物

1:50,000



図 5.10.8(1) 現況調査地点 (海域動植物)